

令和元（2019）年度自己評価

－今年度の重点目標について－

評価の基準：A－大変良くできた B－よくできた C－やや不十分 D－不十分

1 組織的に校務を遂行する。

【評価B】

- ・情報共有と共通認識のもとで校務を遂行する。

【評価B】

各部、科、学年とも、情報を共有することができた。また、共通認識のもと、公務を遂行できた。部等をまたがる連携についてはまだ改良できる余地がある。

- ・協調し和をもって公務に当たることによって教職員の能力を最大限発揮されるよう図る【評価A】

教職員の能力が発揮された例として、例えば本年度卒業生の進路状況では、国公立大学への進学者や、第1希望の企業等に就職できた生徒が多かった。部・科・学年それぞれの立場で、教職員が協調して取り組み、能力を最大限に発揮した結果であるといえる。また、難関資格の取得者も昨年度より増加した。

2 豊かな人間性を育成する

【評価B】

- ・「白楊三訓」を生活指導の基盤とし、人格の形成を図る。

【評価B】

「白楊三訓」（挨拶励行・時間厳守・整理整頓）の実践について、生徒への継続的な浸透が図られた。ほとんどの生徒は実践できるようになっている、継続的に指導を要する生徒も一部見られる。今後も一人一人の人格形成を目指して、組織的な指導を展開していく。

- ・地域連携活動を推進し、主体性、課題解決能力を身につけさせ、豊かな人間性を育む。

【評価B】

専門科目や課題研究をはじめとする各学科の特色ある教育活動の他、各種教育機関等の催事、校外のコンクール、発表会等について、地域交流活動や校外学習の機会として活用するために生徒へ情報提供するとともに活動への参加を促し、生徒の社会性の育成に効果を上げた。

3 基礎学力・専門性を高め、希望進路を実現させる

【評価B】

- ・わかる授業の実践・・・主体的・体験的な深い学びにつながる授業の実践、授業研究による授業力の向上

【評価B】

専門科目における従来からの体験型の授業に広がりが見られ、新聞を活用した授業はNIE全国大会で報告を行った。一方、教員同士で専門性を高め合う工夫、すなわち授業公開週間において、教員相互が「授業を見せ合う」取り組みはまだ改善の余地がある。

- ・資格取得率の向上・・・資格取得の積極的な奨励と指導の充実

【評価B】

全学科において、資格取得の意義を生徒が理解し、意欲的な取り組みが行われた。十分な成果が上がらなかったものもあるが、より難関の国家資格等を取得した生徒が増加し、全体としては、取り組みが概ね反映された。

- ・学習習慣の確立・・・家庭学習、自主学習を習慣化するための課題の提示

【評価C】

確かな学力の定着を図るため、家庭学習の習慣化を意識しながら教科指導を行ってきた。学校に残って学習に取り組む生徒が多く見られ、自主学習は習慣づけられたが、家庭での学習の必要性を生徒が自ら理解するような指導も根気よく継続したい。

4 部活動を一層充実させる

【評価B】

- ・部活動の活性化・・・部活動加入率の向上、集団規律の実践、競技力の向上

【評価B】

8割を超える生徒が部活動に加入し積極的に取り組んでいる。本年度は各部とも部活動方針を策定して公表した。部活動を通して、競技力を高めると同時に、人間性を錬磨し、主体的に活動しようとする意識を育てる指導を今後も継続していきたい。